



# 桑の緑

小坂小学校 学校便り

令和3年9月28日  
文責：校長 江上 知男



## 温かい「思い出」ができるような運動会に…！

私は「運動会」と聞くと、リレーの選手だったり、応援団長をしたりしたことよりも、なぜか3年前に亡くなった父親とのエピソードを思い出すのです。父は電子機器の技術者で、怒るとすごく恐ろしいけど普段は物静かな人でした。父は「優しい」という字は、イ(にんべん)に憂いと書くのだが、本当は憂いにイ(にんべん)をつけるのだよ。なぜかという、憂いのある人の横に、にんべん…つまり人が寄り添うことが“優しい”ということなんだよ」というような、ちょっとした「心がけ」を教えてくれる人でした。

私が6年生の運動会の時、団体の演技は「組体操」でした。体が大きい方だった私は、常に「土台」の役割でした。特に5段のピラミッドは肩やヒザが痛く、つぶれてしまうことも多くて、先生からは「土台がしっかりせんか！」とよく怒鳴られていました。私は「何でこれだけ我慢しているのに怒鳴られんといかんのか」と思っていました。ある日家に帰ってからの夜…母が「帰ったらすぐに体操服を出しなさい！」という言葉に、いらいらしていた私は体操服を袋ごと投げてしまいました。すると、それを見ていた父が「今の態度は何だ！」と鋭い声で言いました。私は、「叱られる」という恐怖とやり場がない気持ちに、涙がでてきました。すると、父は「おまえ頑張ってるんだよな！」と言うのです。思いがけない言葉に「何でわかると？」と聞くと、「おまえの体操服泥だらけやんか。組体操の土台と聞いたぞ。おまえの上に何人も友達に乗ってるんだろ。痛かるうに…」と父は答えました。その時になって、私は体操服を投げたことが恥ずかしくなりました。そして、叱られなかった安堵感とともに、何とも言えない「嬉しさ」を感じたのでした。

私は子どもたちが今年の運動会をとおして、普段の学習とは違う「何か」を学んだり体験したりして欲しいと思っています。そして、「頑張った」とか「楽しかった」とか「嬉しかった」とか「誇らしかった」とか…後から振り返って温かいものであったらなあと考えます。保護者の皆様には「制約の多い運動会」で申し訳ありませんが、ちょっとした言葉かけなど、「思い出づくり」のサポートをお願いできたらと思います。



白：□□団長 赤：◆◆団長

## 本番前、両応援団長にインタビュー

運動会本番を前に、赤白応援団の団長に話を聞きました。

**【問1】初めて応援団長として活動した感想は？**

◆◆団長：練習などでみんなをまとめることが難しかった。

□□団長：みんなを引っ張る経験ができてうれしかった。

**【問2】応援団長としてどのような運動会にしたいか？**

◆◆団長：やり残すことがないように、全力を尽くしたい。

□□団長：見る人が楽しめるよう、最後までやりきりたい。

**【問3】一言！** ◆◆団長：相手の白団は応援団演技などがすごい。一緒に盛り上げたい。

□□団長：小坂の一員として赤団と良い勝負をしたい。お互い良い思い出に。

両団長とも、引き締まった表情で目をキラキラさせながら話してくれました。**運動会は、応援団の頑張りが子どもたちの自主性を高め、運動会全体の効果を上げます。本番の頑張りに注目です！**